

国 語

科目名	単位数	学 科	学 年
現代の国語	2単位	普通科	1年

教科書	現代の国語 (大修館書店)	副教材	新版六訂 カラー版新国語便覧 (第一学習社)
-----	---------------	-----	------------------------

科目の目標	<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	論理的な文章の読み方 「水の東西」 作者の主張と論理のとらえ方「自然と人間の間を通して考える」 論理的な意見を書く 「プラスチック汚染からは逃げられない」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論文の特性を理解する。</li> <li>・話題と主張を意識して読解する力を身に付ける。</li> </ul>
2 学 期	論理的に解釈するⅠ 「言葉についての新しい認識」 伝えるように話す 「「伝える」の先にあるもの」 論理的に解釈するⅡ 「「美しさの発見」について」 比較して解釈する 「「空気を読む」「「個人」から「分人」へ」 資料を用いて発表する 「どう伝えるか」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の構成を練る力を身に付ける。</li> <li>・文章の展開と筆者の論理を捉える力を身に付ける。</li> </ul>
3 学 期	統計資料をもとに意見を書く 論理的に解釈するⅢ 「白」 論理的に解釈するⅣ 「贅沢を取り戻す」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を適切に読み取り、言語情報として適切にまとめる力を身に付ける。</li> </ul>

備 考	<p>1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。</p> <p>2 国語の学習において、要約と説明は鍵である。文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。</p> <p>3 知らないことは考えられない。積極的に読書し、自分の知見を広げること。</p>
--------	---

評 価 規 準	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能、中でも実社会にでて必要となる基礎的な語彙（漢字の読み・書きを含む）を獲得できているか。
	思考・判断・表現	文章の論理を意識し、論理的に考え、他者との関わりの中で論理的に伝え合う力を高めることができているか。
	主体的に学習に取り組む態度	積極的に授業に参加し、学習内容に対して進んで自らの考えを深めたり、広げたりしているか。

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	<p>学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点</li> <li>○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点</li> <li>○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点</li> <li>○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点</li> </ul>
---------	--

国 語

科目名	単位数	学 科	学 年
言語文化	2単位	普通科	1年

教科書	言語文化 (大修館書店)	副教材	カラー版 新国語便覧 (第一学習社)
-----	--------------	-----	--------------------

科目の目標	<p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	古文に親しむⅠ 「絵仏師良秀」 古文に親しむⅡ 「絵仏師良秀」・「地獄変」 漢文に親しむ 「蛇足」 詩に親しむⅠ 「俳句」	日本の言語や文化に興味を持ち、自身のものの見方を広げる。
2 学 期	小説に親しむ 「羅生門」 古文の鑑賞Ⅰ 「雪のいと高う降りたるを」 漢文の鑑賞Ⅰ 「完璧」 古文の鑑賞Ⅱ 「神無月のころ」 詩に親しむⅡ 「静夜詩」「短歌」	表現方法を読み取り、想像力を磨く。また、作品のテーマを捉え、自らの課題として考える。
3 学 期	古文の鑑賞Ⅲ 「木曾の最期」 小説の鑑賞 「セメント樽の中の手紙」 漢文の鑑賞Ⅱ 「臥薪嘗胆」	自身の言語に深い関心を持つ。また、作品のテーマを考察する力を養う。

備 考  <small>(学習のポイント)</small>	<p>1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。</p> <p>2 文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。</p> <p>3 積極的に読書し、自分の知見を広げること。時間がある時は国語便覧を積極的に読むとよい。</p>
--	--

評 価 規 準	知識・技能	基礎的な文法事項や語彙、表現方法などが身に付いている。また、文章の構成や展開を理解し、多角的に物事を考え、適切に書いたり話したりできる。
	思考・判断・表現	身に付けた知識・技術を生かし、複数の視点から自分の考えを確立できる。また、自分の思いや考えを深く見つめ直し、表現を豊かにして効果的に自分の思いや考えを伝えることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら言語文化に関心を持ち、意欲的に調べたり学習したりすることができる。また、言葉を通して他者や社会と積極的に関わろうとする態度で、話したり聞いたりする活動ができる。

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	<p>学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。</p> <p>○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点</p> <p>○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点</p> <p>○ 授業成果物 (レポート、感想文、提出物等) … Ⅱ・Ⅲ の観点</p> <p>○ 授業態度 (真面目な態度、積極的な取組) … Ⅲ の観点</p>
---------	---

地理歴史

科目名	単位数	学科	学年
地理総合	2単位	普通科	1年

教科書	新地理総合 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	副教材	新編地理資料 (東京法令出版)
-----	-------------------------------	-----	-----------------

科目の目標	地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる資質・能力を養う。
-------	--

	学習項目	学習のねらい
1 学期	地図でとらえる現代世界 1 地図と地理情報システム 2 結び付きを深める現代世界 国際理解と国際協力 1 生活文化の多様性と国際理解	・地図や地理情報システムを用い、目的や用途について考察する。 ・自他の文化を尊重し、国際理解を図ることの醸成について理解する。
2 学期	1 生活文化の多様性と国際理解 2 地球的課題と国際協力	・より良い社会の実現を視野に、国際的課題について主体的に追究する。 ・持続可能な社会づくりについて考察する。
3 学期	持続可能な地域づくりと私たち 1 自然環境と防災 2 生活圏の調査と地域の展望	・世界や生活圏でみられる自然災害について、対応の重要性を理解する。 ・生活圏の地理的な課題について追究する。
備 考 <small>(学習のポイント)</small>	1 学習プリントはきちんと書き込み、積極的にメモ書きをしよう。 2 家庭学習では、教科書・資料によく目を通して、学習の復習をしよう。 3 地名などは地図帳を利用して、しっかりその位置を確認しよう。 4 社会の動きに注目し、学習内容と世界の動向とを結びつけて考えよう。	

評価 規 準	知識・技能	世界の生活文化の多様性や、地理的課題を理解しているとともに、調査や資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	地理的な課題の解決に向けて考察したことを、効果的に説明できる。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、地理に関わる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

定期 考 査 実 施 予 定	1学期 中間	1学期 末	2学期 中間	2学期 末	学年 末
	○	○	○	○	○

評価 方 法	定期考査、学習プリント提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○学習プリント提出 (授業中の取組や家庭での復習状況) ○授業態度 (意欲的な態度、発表内容) ○課題提出 (ワーク作業や長期休業中の課題など) ○定期考査 (考査範囲の適切かつ計画的な学習成果)
--------------	--

地理歴史

科目名	単位数	学科	学年
歴史総合	2単位	普通科	1年

教科書	明解 歴史総合 (帝国書院)	副教材	明解歴史総合図説シンフォニア (帝国書院)
-----	----------------	-----	-----------------------

科目の目標	歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる資質・能力を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	近代化と私たち 1 江戸時代の日本と結び付く世界 2 欧米諸国における近代化 3 近代化の進展と国民国家形成 4 アジア諸国の動揺と日本の開国 5 近代化が進む日本と東アジア	・事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方を理解する。 ・欧米諸国の進出が現代社会に与えた影響と課題について追究する。
2 学 期	国際秩序の変化や大衆文化と私たち 1 第一次世界大戦と日本の対応 2 国際協調と大衆社会の広がり 3 日本の行方と第二次世界大戦 4 再出発する世界と日本 グローバル化と私たち 1 冷戦で揺れる世界と日本	・資料を分析し、情報を適切に取り扱う技能を身に付ける。 ・大衆の戦争協力が与えた影響について考察する。
3 学 期	1 冷戦で揺れる世界と日本 2 多極化する世界 3 グローバル化のなかの世界と日本	・冷戦下の緊張と緩和の経緯を理解する。 ・地域統合やナショナリズムについて各地域を比較して考察する。
備 考 の ポ イ ン ト	1 学習プリントはきちんと書き込み、積極的にメモ書きをしよう。 2 家庭学習では、教科書・資料によく目を通して、学習の復習をしよう。 3 地名などは地図帳を利用して、しっかりその位置を確認しよう。 4 社会の動きに注目し、学習内容と世界の動向とを結びつけて考えよう。	

評 価 規 準	知識・技能	現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	歴史的事象の特色を、現在とのつながりに着目して考察し、構想したことを効果的に説明できる。
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、学習プリント提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○学習プリント提出 (授業中の取組や家庭での復習状況) ○授業態度 (意欲的な態度、発表内容) ○課題提出 (ワーク作業や長期休業中の課題など) ○定期考査 (考査範囲の適切かつ計画的な学習成果)
---------	--

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学I	3単位	普通科	1年

教 科 書	新編数学I (数研出版)	副 教 材	クリアー数学I +A (数研出版)
-------	--------------	-------	-------------------

科目の目標	高校数学の基本を確実に理解するとともに、家庭学習を含めた学習習慣の定着を目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 数と式 式と計算 実数 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 2次関数とグラフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の内容の復習から高校数学へ発展します。</li> <li>・論理的に事象を考察する方法を学ぶ。</li> </ul>
2 学 期	2次関数の値の変化 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 三角比 三角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数のグラフおよびグラフと方程式・不等式の関係について学ぶ。</li> <li>・さまざまな図形の計量法を学ぶ。</li> </ul>
3 学 期	第5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのデータを分析し、活用する方法を学ぶ。</li> </ul>
備 考  (学習のポイント)	1 第1章は、基本的な内容ですが、基礎的な計算力がなければ高校数学を理解することはできません。繰り返し演習を行い、確実に定着させましょう。 2 第2章は、集合と命題に関する論理演算の概念について学びます。数や図形、方程式、不等式などの基本的な知識を身に付けておく必要があります。 3 第3章は、方程式・不等式と関数のグラフの関係になります。グラフの特徴をつかむと理解しやすくなります。 4 第4章は、三角形の辺の長さに関する内容です。正しい図をかくことを心掛けましょう。 5 第5章は、データを分析する上で扱う数値について学習します。そのためには、言葉の意味や計算方法を覚える必要があります。	

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解し、事象を数学的に解釈し、処理することができる。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出 (予習・復習及び整理状況の確認) ○ 授業態度 (まじめな態度、積極的な発表) ○ 小テスト (単元毎の小テストなど) ○ 課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題)
---------	---

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学 A	2 単位	普通科	1 年

教 科 書	新編数学 A (数研出版)	副 教 材	クリアー数学 I + A (数研出版)
-------	---------------	-------	---------------------

科目の目標	高校数学の基本を確実に理解するとともに、家庭学習を含めた学習習慣の定着を目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 場合の数と確率 場合の数 確率	・実生活における具体的な例を通して場合の数や確率を学ぶ。
2 学 期	第2章 図形の性質 平面図形 空間図形 第3章 数学と人間の活動	・三角形や円などの基本的な図形の性質を学ぶ。 ・約数、倍数、最大公約数などの基礎的な内容を学ぶ。
3 学 期	第3章 数学と人間の活動	・最大公約数を求める方法のユークリッドの互除法を学ぶ。
備 考  (学習のポイント)	<p>1 第1章は、和の法則・積の法則などの基本をしっかり押さえておくこと。場合の数ができなければ、確率を理解することは難しいため、しっかりと場合の数の問題を解けるようにしましょう。</p> <p>2 第2章は、中学校で学んだ性質を基に、三角形や円の性質など平面図形に関する基礎的な内容を学んでいきます。まずはしっかりと中学校で学んだことを復習しておこう。</p> <p>3 第3章は、既知っている「約数・倍数・最大公約数」等について学び、身の回りの事柄と関連付けて学習を進めます。まずはその言葉の意味や求め方を確認しておきましょう。</p>	

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解し、事象を数学的に解釈し、処理することができている。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	<p>定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノート提出 (予習・復習及び整理状況の確認)</li> <li>○ 授業態度 (まじめな態度、積極的な発表)</li> <li>○ 小テスト (単元毎の小テストなど)</li> <li>○ 課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題)</li> </ul>
---------	---

## 理 科

科目名	単位数	学 科	学 年
化学基礎	2単位	普通科	1年

教科書	化学基礎 (東京書籍)	副教材	化学基礎の徹底暗記&ドリル(啓林館)
-----	-------------	-----	--------------------

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、自然の事物・現象に対する興味・関心を高め、化学的に現象を理解しようとする能力と態度を育てると共に、基本的な原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 2編 物質の構成 1章 原子の構造と原子の周期表 2章 化学結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの生活と化学の関わりを理解する。</li> <li>原子の構造・性質について理解する</li> <li>様々な化学結合と物質との関係を理解する。</li> </ul>
2 学 期	3編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 第2章 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学反応式と物質量の関係を理解する。</li> <li>酸・塩基とその量的関係を理解する。</li> </ul>
3 学 期	第3章 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化数及び酸化・還元を理解する。</li> <li>酸化・還元反応と量的関係を理解する。</li> </ul>
備 考  学習のポイント	化学は身の回りにある物質についての学問です。まず、身の回りの物質が持つ様々な性質に興味を持つことが大切です。また、実験観察の結果から多くの法則を理解し学ぶこととなりますから、筋道立てて物事を考える力が必要になります。普段から論理的な文章を読んだり書いたりすることも化学の学習には必要になります。	

評 価 規 準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい科学的概念をもとに用語や法則を理解しているか。</li> <li>実験操作が正しいか。</li> </ul>
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な反応を正しく予想し、自分の言葉で表現できるか。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学に興味を持ち、化学的概念の理解に積極的に努めているか。</li> </ul>

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出 (整理状況及び工夫の確認) ○ 授業態度 (教科に対して真摯で積極的か。) ○ 課題提出 (週末課題及び長期休業中の課題)
---------	---

理 科

科目名	単位数	学 科	学 年
生物基礎	2単位	普通科	1年

教科書	生物基礎 (第一学習社)	副教材	標準 セミナーノート 生物基礎
-----	--------------	-----	-----------------

科目の目標	生物とそれを取り巻く環境に対する関心を高め、自分のからだや自分の周りの環境について理解し、問題を意欲的に探究する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 生物の特徴 1節 生物の共通性 2節 生物とエネルギー 第2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝子の本体と構造 2節 遺伝情報とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の多様性と共通性を知る。</li> <li>・遺伝子とその働きを学ぶ。</li> <li>・遺伝子の発現について学ぶ。</li> </ul>
2 学 期	第3章 ヒトのからだの調節 1節 情報の伝達と体内環境の維持 2節 免疫 第4章 植生と遷移 1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体内環境と恒常性について学ぶ。</li> <li>・ホルモン調節や免疫システムについて学ぶ。</li> <li>・植生と遷移について学ぶ。</li> </ul>
3 学 期	2節 バイオーム 第5章 生態系とその保全 1節 生態系と生物の多様性 2節 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候とバイオームについて学ぶ。</li> <li>・生態系の物質循環、バランスと保全について学ぶ。</li> </ul>
備 考 (学習のポイント)	1 生物の特徴を知り、どのような進化が起こったのか理解しよう。 2 遺伝子の働きや体内環境を維持するしくみを学び、自分のからだの成り立ちや現象を理解しよう。 3 言葉や現象についてよく理解し、文章で正確に表現できるようにしよう。 4 表や図を見て、表現や理解ができるようにしよう。	

評 価 規 準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の内容を理解し、正しい知識で生命現象を説明することができるか。</li> <li>・顕微鏡観察や実験を、正しい手順で素早く行うことができるか。</li> </ul>
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的知識のもとに、現象理解を行い表現することができるか。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に生物に興味を持ち、内容の理解に努めているか。</li> </ul>

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度、実験態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出 (予習・復習及び整理状況の確認) ○ 授業態度 (まじめな態度、積極的な発表、ペアワーク・グループワークの態度) ○ 小テスト (確認テストなど) ○ 課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題)
---------	--



保健体育

科目名	単位数	学科	学年
体育	3単位	普通科	1年

教科書	新高等保健体育 (大修館書店)	副教材	最新スポーツルール 24 (大修館書店)
-----	-----------------	-----	----------------------

科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。</p>
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	<p>体づくり運動 (通年) 集団行動 新体カテスト、陸上競技 球技Ⅰ [個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法] 【男子】【女子】 (バレーボール) (ソフトボール) 体育理論 (人間にとって「動く」とは何か、スポーツの始まりと変換)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己の体力や生活に応じて取り組み、実生活に役立てる。</li> <li>・ 自己に適したペースを維持して走る。</li> </ul>
2 学 期	<p>球技Ⅱ [個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法] 【男子】【女子】 (サッカー・バスケットボール) 陸上競技 [中・長距離走] 校内マラソン大会 【男子】 8km 【女子】 4km 体育理論 (スポーツ文化の楽しみ方、オリンピックと国際理解)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作戦や状況に応じた技能や仲間と連携してゲームが展開できるようにする。</li> </ul>
3 学 期	<p>球技Ⅲ [個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法] 【男子】【女子】 (バスケットボール・バレーボール) 体育理論 (スポーツの経済、ドーピングとスポーツ倫理)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。</li> </ul>
備 考 (学習のポイント)	<p>1 自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2 集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。(5分前行動) 3 互いに協力して自己責任を果たそう。</p>	

評 価 規 準	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための倫理について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

定期 実 施 予 定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
------------------------	-------	------	-------	------	-----

評 価 方 法	<p>出席状況、授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出席状況、授業態度・意欲 (授業の参加状況、意欲的でまじめな態度)</li> <li>○ 運動の技能 (各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度)</li> <li>○ 体育理論の理解度 (理解度の確認テスト)</li> </ul>
------------------	---

保健体育

科目名	単位数	学科	学年
保健	1単位	普通科	1年

教科書	最新高等保健体育（大修館）	副教材	最新高等保健体育ノート（大修館）
-----	---------------	-----	------------------

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
-------	--

	学習項目	学習のねらい
1 学期	1単元 現代社会と健康 日本における健康課題の変化 健康の考え方と成り立ち ヘルスプロモーションと健康に関する環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択 現代における感染症の問題 感染症とその予防 性感染症・エイズとその予防	・健康の考え方の変化、個人の意思決定や行動選択、性感染症の対策について理解する。
2 学期	2単元 安全な社会生活 事故の現状と発生要因 交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成 応急手当の意義と緊急医療体制 心肺蘇生法 日常的な応急手当 生活習慣病とその予防と回復 身体活動・運動と健康 食事と健康	・心肺蘇生法や応急手当の正しい手順や方法、個人や社会環境への対策、感染症の対策について理解する。
3 学期	1単元 現代社会と健康 休養・睡眠と健康 がんの予防と回復 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患への対応	・ストレスへの対処法、交通事故の防止策について理解を深める。
備 考 (学習のポイント)	1 心身の健康課題や健康に対する考え方の変化に対応するため、新聞・ニュース等に関心を持ちよく見よう。 2 教科書・ノートは忘れず持参し、板書等はノートに必ず取ろう。 3 提出物は期限を守り、確実に提出しよう。	

評価 規 準	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	健康について自他の社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的に応じて他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施 予 定		○		○	○

評価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題・レポート提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
--------------	---

芸術

科目名	単位数	学科	学年
音楽I	2単位	普通科	1年

教科書	音楽I Tutti plus (教育出版)	副教材	
-----	-----------------------	-----	--

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	歌唱表現 校歌 器楽表現 リコーダー 創作表現 言葉の抑揚を生かした旋律づくり 鑑賞 ミュージカル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌を覚えて歌う。</li> <li>・リコーダーでふるさとの二重奏を演奏する。</li> <li>・創意工夫のある旋律を創作する。</li> <li>・ミュージカルの魅力を理解する。</li> </ul>
2 学 期	歌唱表現 合唱 ドイツ歌曲 器楽表現 テーブルミュージック 鑑賞 越天楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱コンクールに向けて自分たちで音楽づくりをする。</li> <li>・正しい発音で野ばらを歌えるようにする。</li> <li>・テーブルを使ったリズムアンサンブルを創作し、演奏する。</li> <li>・雅楽の歴史や仕組みについて理解する。</li> </ul>
3 学 期	器楽表現 ギター 鑑賞 アジアのさまざまな音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コード奏ができるようになる。</li> <li>・民族音楽の特徴を理解する。</li> </ul>
備 考	1 表現に必要な技能を身に付けるために、根気強く練習に取り組もう。 2 他者と積極的に意見を共有したりアンサンブルしたりしよう。 3 日ごろからさまざまな音楽と親しもう。	

評 価 規 準	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりや音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりすることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付けている。

定期考査 実施予定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
--------------	-------	------	-------	------	-----

評 価 方 法	実技テストや小テスト、ワークシートの記述内容、授業態度などを総合的に評価する。 ○実技テスト ○小テスト ○ワークシートの記述内容 ○授業態度 (授業態度、積極性、発表会、練習態度)
---------	---

芸 術

科目名	単位数	学 科	学 年
美術I	2単位	普通科	1年

教科書	美術1 (光村図書)	副教材	
-----	------------	-----	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	絵画 基礎、立体感を出すには、陰影 まとめ デザイン 色彩学習、着彩の技法、紙の切り方。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な絵画技法を習得する。</li> <li>・アイデアを出しデザインを工夫する。</li> </ul>
2 学 期	彫刻 紙粘土の扱い方、頭部の制作、骨格の理解、 筋肉の付き方、ヘラの技法。 絵画 着彩の技法、混色の理解。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現方法を試す。</li> <li>・立体的に表現するおもしろさを味わう。</li> </ul>
3 学 期	工芸 かまぼこ板を加工する、製図、糸鋸の扱い方、 ドリルの使い方、組み立て方法、仕上げの方法。 鑑賞 作品の理解。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使う、遊ぶデザインの理解。</li> <li>・道具の正しい扱い方を理解する。</li> </ul>
備 考  (学習のポイント)	1 絵画技法を習得し、立体的に表現できるようにしよう。 2 自分の考えているイメージを形にしよう。 3 様々な作品を鑑賞しよさを発見しよう。	

評 価 規 準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定期考査 実施予定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
--------------	-------	------	-------	------	-----

評 価 方 法	<p>学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。</p> <p>作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。</p> <p>○授業プリントの提出 (授業内容の理解の確認) … Ⅰ・Ⅱ の観点</p> <p>○授業態度 (真面目な態度、積極的な発表など) … Ⅲ の観点</p> <p>○課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題) … Ⅱ・Ⅲ の観点</p> <p>○鑑賞プリントの提出 … Ⅱ・Ⅲ の観点</p>
---------	--

外国語（英語）

科目名	単位数	学科	学年
英語コミュニケーションⅠ	4単位	普通科	1年

教科書	APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION I (開隆堂)	副教材	Word Navi 英単語・熟語 3000 ラーナーズ高校英語
-----	--	-----	------------------------------------

科目の目標	英語の音声や語彙などの理解を深め、実際のコミュニケーションで適切に活用できる技能を身に付ける。日常的な話題等について、英語で要点や話し手の意図などを理解したり、表現したりする力を養う。英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的自律的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
-------	--

	学習項目	学習のねらい
1 学期	Lesson 1 The Amazing Scenery Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate Lesson 3 The Secrets of Top Athletes	文構造 (SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC)、比較、現在完了形、現在完了進行形、過去完了形
2 学期	Lesson 4 Evolving Airplanes Lesson 5 The Symbol of Peace Lesson 6 Serendipity Lesson 7 The Secrets Hidden in Vermeer's Works	助動詞、受動態、動名詞、不定詞、形式主語、分詞の後置修飾、知覚動詞、使役動詞、関係代名詞
3 学期	Lesson 8 Endangered Species in the World Lesson 9 The Dream of Special Makeup Lesson 10 Purifying Powder	前置詞+関係代名詞、関係副詞、条件を表す副詞節、仮定法、関係代名詞 what、強調構文、分詞構文

備考 (学習のポイント)	<p>1 英語が使えるようになるために、基本的な単語、文法をしっかりと習得する。</p> <p>2 基礎・基本の定着を図るため、必ず予習をして授業に臨み、学習に集中する。</p>
-----------------	---

評価 規 準	知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題等について、その内容を捉えたり伝えたりする技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題等について、必要な情報等を捉えたり、伝えたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化への理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を使おうとしている。

定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施 予 定	○	○	○	○	○

評価 方 法	<p>定期考査、小テスト、パフォーマンステスト、ノート等の提出物、授業態度等を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノート提出 (予習・復習及び整理状況の確認)</li> <li>○ 授業態度 (真面目な態度、積極的な発表、ペアワークやグループワークへの取組)</li> <li>○ 課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題)</li> <li>○ パフォーマンステスト (読む・書く・聞く・話すなどの活動)</li> </ul>
--------------	--

外国語（英語）

科目名	単位数	学科	学年
論理・表現 I	2単位	普通科	1年

教科書	MY WAY Logic and Expression I (三省堂)	副教材	Word Navi 3000
-----	--	-----	----------------

科目の目標	基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、意見や主張を工夫して伝えたり、文章を書いて伝えることができる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves Lesson 2 School Life Lesson 3 The Arts Lesson 4 Food and Culture	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介で差をつける</li> <li>学校生活</li> <li>アートの世界</li> <li>英語でグルメ</li> </ul>
2 学 期	Lesson 5 Welcome to Our Town Lesson 6 Traveling Abroad Lesson 7 Sports Lesson 8 Everyday Technology	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えよう！町の魅力</li> <li>驚きいっぱい世界旅行</li> <li>スポーツ観戦</li> <li>科学技術で世界は変わる</li> </ul>
3 学 期	Lesson 9 Take Care Lesson 10 SDGs—Take Action!	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気が一番</li> <li>世界を変えるのは私たち</li> </ul>
備 考 考 点	<ol style="list-style-type: none"> <li>各レッスンの学習項目についての感想や意見を英語で表現する。</li> <li>「学習のねらい」の文法と使い、身の回りのことを英語で表現する。</li> <li>発表やディスカッションを通して、英語学習の楽しさを学ぶ。</li> </ol>	

評 価 規 準	知識・技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えを的確に理解している。
	思考・判断・表現	基本的な英語表現を用いて話したり書いたりして、情報や考えなどを相手に伝えようとしている。
	主体的に学習に取り組む態度	英語を用いたコミュニケーションに関心を持ち、積極的に伝えようとする態度がみられる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	<p>定期考査、ノートや課題の提出、授業態度を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認）</li> <li>○ 授業態度（まじめな態度、挙手による積極的な発表）</li> <li>○ 小テスト、発表の内容と態度</li> </ul>
---------	---

# 家 庭

科目名	単位数	学 科	学 年
家庭基礎	2単位	普通科	1年

教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）	副教材	家庭科ノート（愛媛県高等学校家庭科教育研究会）
-----	---------------------	-----	-------------------------

科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 障害を見通す 第7章 衣生活をつくる （実習）基礎縫い 第6章 食生活をつくる （実習）調理実習 第10章 持続可能な生活を営む ホームプロジェクト（夏休み課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を見通した青年期の生き方について学ぶ</li> <li>・衣生活の自立に必要な知識と技術を身に付けることができる。</li> <li>・栄養、調理等について学び、食生活を営む上で必要な知識と技術を身に付ける。</li> <li>・資源や環境に配慮した生活行動を学ぶ。</li> <li>・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。</li> </ul>
2 学 期	ホームプロジェクト（発表会） 第7章 衣生活をつくる 第4章 超高齢社会を共に生きる 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む 第5章 共に生き、共に支える 第3章 子どもと共に育つ （実習）保育作品製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服管理の知識と技術を身に付け、健康で快適な衣生活の方法を学ぶ。</li> <li>・高齢者の生活の課題から、自立生活の支援の方法を学ぶ。</li> <li>・安全で環境に配慮した住生活の方法を学ぶ。</li> <li>・生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任ある行動を学ぶ。</li> <li>・福祉や社会的支援について理解し、共に支え合って生活することの重要性について学ぶ。</li> <li>・乳幼児の心身の発達と生活について学ぶ。</li> </ul>
3 学 期	第3章 子どもと共に育つ 第2章 人生をつくる 第11章 これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達に必要な周りの人々の果たす役割を学ぶ。</li> <li>・生涯を見通した自己の生活について考えることができる。</li> </ul>
備 考 （学習ポート）	1 将来の生活設計を考え、今の家庭生活に興味を持とう。 2 家族の一員としての役割を果たすために、家族との会話を大切にしよう。 3 基礎的・基本的な知識と技術を定着させるために、積極的に家事を手伝おう。 4 実践力を養うために、検定やホームプロジェクト、家庭クラブ活動に参加しよう。	

評 価 規 準	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定		○		○	○

評価方法	定期考査、提出物（課題、プリント）、授業態度等を総合的に評価する。 ○ プリント提出（整理状況の確認） ○ 小テスト（単元ごとの確認テストなど）	○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
------	--	--